

「森は生きている」 3

森は海の魚を育てているー海と山は川によってつながっているよ！



「森が海の魚を育てている」、このタイトルを見て「川の魚を育てている」の間違いではありませんか？とある留学生に聞かれました。

いいえ、このタイトルは間違いではありません。海から遠く離れた森でも、川によって海とつながり、森は海の魚を育てているのです。

森の中の川は森の中で生まれたたくさんの栄養を海まで運びます。

海の中でも特に魚が多いのは、沿岸部、つまり川に近いところです。魚たちはちゃんと海の中でも栄養の多い場所を知っているのですね。

海は残念なことに栄養は海の底に沈んでしまいます。ですから海には栄養が足りません。魚たちが沿

岸に集まるのも当然かもしれませんね。

日本は「海に囲まれている」、だから漁業が盛んで魚もおいしいものが食べられる、確かにその通りですが、魚屋さんで売られている「アジ、サバ、イワシ、タイ、スズキ、ヒラメ」などはどれも沿岸漁業でとられた魚たちなのです。

木には冬になると葉を落とす「落葉樹」と一年中葉を落とさない「常緑樹」があります。魚たちの栄養のもとになる「木」は「落葉樹」の葉からたくさん生まれます。大地に落ちた葉にはたくさんの栄養分があり、それも毎年秋になると葉が落ちるので、「定期的」に栄養が海に運ばれます。

森には「天然」でできた森と「人工的」に植えられた森があります。天然林には「落葉樹」が多いのですが、「人工林」には早く育つ「カラマツ」などの「常緑樹」が多く、その分、川に運ばれる栄養も少ないのです。

今、日本にある森のうち40%が人工林だそうです。それでも手入れされた森は木が育ち、地崩れなどを防ぐダムの役割を果たしてくれます。しかし、人の手で管理されない森は木がどんどん増え、木は光にあたることができず、大地に根を張ることもできず、倒れてくさってしまいます。人間がつくった「人工林」なのですから、きちんと管理しなくてははいけませんよね。

2015年9月に「国連サミット」でSDGS「持続可能な開発目標」が決められましたが、その中に「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」が入っています。それらの目標のためには、私たちは森を大切にしなければなりません。「森は生きている」のです。

(896字)

(2020.12 Written by Mizue SASAKI)

<参考資料>

- ・「国際連合広報センター」ウェブサイト (2021.1.18 確認)

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/





この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.